

平成26年度 創邦21 事業報告

1. 会議の開催

(イ) 総会の開催

平成26年 9月 2日18時より 定時総会開催 於CATオフィス

(ロ) 例会の開催

平成26年 4月 9日17時より 第140回例会 於CATオフィス

平成26年 5月29日14時より 第141回例会 於CATオフィス

平成26年 6月30日15時30分より 第142回例会 於CATオフィス

平成26年 8月 1日18時より 第143回例会 於CATオフィス

平成26年 9月 2日16時30分より 第144回例会 於CATオフィス

平成26年10月28日21時より 第145回例会 於CATオフィス

平成26年11月 7日10時30分より 第146回例会 於CATオフィス

平成26年12月28日13時より 第147回例会 於CATオフィス

平成26年 2月 5日10時30分より 第148回例会 於CATオフィス

平成26年 3月 8日16時より 第149回例会 於国立劇場楽屋食堂

2. 作品演奏会の開催

第12回作品演奏会

主催：創邦21

日時：平成26年10月 8日 18時開場（18時30分開演）

場所：中央区立日本橋公会堂 4階ホール（日本橋劇場）

制作・協力：（株）シーエイティプロデュース

助成：芸術文化振興基金

後援：公益財団法人 日本伝統文化振興財団

曲目：『廬生』（金子泰作詞、松永忠一郎作曲）

『ほら男爵の大冒険』（杵屋巳太郎作曲、竹柴潤一脚色）

『清しき花』（金子泰作詞、今藤長龍郎・今藤政貴・清元栄吉作曲）

『天の彩』（米川敏子作曲）

『天の石笛』（今藤美治郎作曲）

おはなし：「創邦21を語る」 今藤政太郎、米川敏子、杵屋浄貢（手紙による出演）

3. 試演会の開催

第9回試演会

主催：創邦21

日時：平成26年6月17日 16時より

場所：国立劇場研修室

4. 公開講座の開催

第5回公開講座「創作のキモ」

主 催:創邦21

日 時:平成27年1月7日 18時30分開始

場 所:原宿・アコスタジオ

入場料:一般2000円、創作を志す方1000円、学生1000円、学生で創作を志している方500円

内 容:「“洋素材”で創る—普遍をもとめて」

I 部—出会い、そして転機…「キリエ」(作曲 福原徹)

講師:福原徹 ききて:今藤政貴

II 部—三味線で表現できることに挑む「ほら男爵の大冒険」(作曲 杵屋巳太郎/脚色 竹柴潤一)

講師:杵屋巳太郎

5. 創邦21ホームページの運営

- ・第12回演奏会に向けた創作活動・準備状況をトップページに順次掲載
- ・アーカイブとして「公演記録」を更新
- ・同人の執筆したエッセイ、レポート等の掲載
- ・同人による同人インタビュー「創邦11面相」の連載
- ・ブログの更新

6. 作品演奏会準備

- ・平成26年10月8日開催の第12回創邦21作品演奏会へ向けての諸準備
- ・平成27年11月5日開催予定の第13回創邦21作品演奏会へ向けての諸準備

【総括】

1. 平成26年9月2日に定時総会、また同年4月9日の第140回から翌27年3月8日の第149回まで計10回の例会を行った。例会では、140回から144回は主に第11回作品演奏会について、145回以降は次回演奏会に向けての話し合いがなされた。147回に第12回演奏会の反省と総括を行い、それを踏まえて演奏会開催へ準備を進めている。
2. 平成26年10月8日に中央区立日本橋公会堂4階ホール（日本橋劇場）にて、創邦21第12回作品演奏会を開催した。前回演奏会の反省も踏まえて出品曲数を5曲とした。「盧生」、「ほら男爵の大冒険」、「清しき花」、「天の石笛」の4曲は新作書き下ろしの初演作品であり、また今回より「再演枠」を設け、「天の彩」（2006年初演）を取り上げた。各曲とも作者（作詞者、作曲者）らが制作や上演にあたってそれぞれに課題や曲の方向性を定め、それらを遂行し実現できていたことは、我々の仕事として当然のことはいえ、ひとつの成果であった。また演奏会に先立ち6月に試演会を行ったことも奏功した。このように作品づくりに安定感が増したことは評価に値するが、一方現状に甘んじマンネリに陥ってしまわないよう、常に前向きに取り組む姿勢を忘れてはならない。同人内部からもそれを危惧する声が上がっており、倦むことなく、よりよい作品を目指して今後さらにステップアップしていきたい。再演については、作品のブラッシュアップや定着の意味でも演奏会のクオリティの点からも、「やって良かった」の声が多く、引き続き行っていきたい。もうひとつ今回初めて企画したのは同人数名による「おはなし」である。新作の上演が並ぶなかで、短時間ではあるがこの顔見せな一幕は、お客様の緊張をひととき和らげ、また次の曲に集中していただくことに効果があったように思われる。さて、今12回作品演奏会の最大の問題として第一に反省すべきは、来場者数が芳しくなかったことである。同日同時刻に他に二つの大きな演奏会が重なったという不運もあった。日程を定める時に、他の催しの動向をある程度リサーチすることも必要だろう。しかし、いわゆる「皿の中のパイの取り合い」に終始しては発展はないのであって、邦楽を支える愛好者・受容者全体の数を増やすことがそもそも根本的に必要なのであり、それは現在の邦楽界全体の問題とも言える。邦楽受容者の増加のためにも、われわれの音楽活動（創作活動のみならず古典作品の演奏も含めての）を魅力的なものにし、積極的に発信してことが、今後の最大の課題となる。演奏会に向けた準備については、今回実行委員が作成した工程表はたいへん有効であったので、今後も活用していきたい。
3. 前述のように6月17日に同人内で試演会を行い、11月の作品演奏会に出品する曲を聴き合った。当初は演奏会に至るまでのスケジュール管理的意味合いで開催を決めたが、実際行ってみると、試演会は創邦21という団体の意義—同人同士で忌憚のない意見を言い合い、切磋琢磨し、向上する—にふさわしいものであると改めて認識することとなった。これからも大いに開催すべき会であり、活用したい。
4. 公開講座「創作のキモ」は今回満員の盛況をみせ、はじめて収支も黒字になったことはたいへん喜ばしい。より双方向に意見が行き来するように工夫したい。
5. 創邦21ホームページを開設し、積極的に運営した。トップページには、第12回演奏会に至るまでの準備状況や作品制作の様子を順次掲載し、演奏会の案内をするとともにわれわれの創作活動も紹介した。演奏会後には公演記録を掲載し、また同人執筆のエッセイやレポートは随時掲載して、それぞれアーカイブとして、読み物として、ホームページを充実させたほか、平成27年1月より同人による同人インタビュー「創邦11面相」の連載も始めた。同人の作曲や創作に対する姿勢、邦楽また芸術に対する考え方などを、同じく創作者として同人が聞きだしており、個々の意外な一面や根本的な考え方などを知ることができておもしろいと好評いただいている。ブログも毎月4ないしは6回程度更新し、同人の活動、同人の生の言葉を発信することに努めた。
6. 第13回作品演奏会を再演曲で構成することに決め、場所も紀尾井小ホールに決定し、準備を進めている。前回演奏会の反省を踏まえ、集客に努め、会を成功させたい。